

弁護士の子供自衛官誕生

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 近藤一空尉）は、2月5日（月）昨年春に予備自衛官補採用試験に合格した得能 智高（とくのう とまたか）さん（33歳）から、予備自衛官補訓練を修了し晴れて予備自衛官に任命された報告を受けた。

得能さんは、弁護士として東京都内の法律事務所に勤務する傍ら、何か役に立てるのではないかと予備自衛官を志望。昨年4月朝霞駐屯地で実施された弁護士や医師、英語などの資格や技能を持つ者を対象とした予備自衛官補技能採用試験を受験し、合格した。

仕事の都合を調整し、武山駐屯地第17教育大隊にて、基本教練や射撃などの10日間の訓練を修了し、採用から1年もたたないうちに予備自衛官に任命され、得能予備2等陸尉の誕生となった。得能さんは「合格してから、仕事との両立に不安がありました。そんな時、陸自への体験搭乗の機会を頂きました。その折、広報官の方に相談ののってもらい、又実際に働く隊員の姿を見て、訓練に参加して予備自衛官になる決心がつかしました」とこれまでの経緯を話し、広報官が訓練の感想を聞くと「楽しくて仕方がなかった。予備自衛官訓練も仕事の日程を調整しながら、参加したい」と意気込みを語った。

市ヶ尾募集案内所は「広報官の機転により志願者のやる気を継続させ、訓練参加に導くことができた。本人からの予備自衛官就任の報告は嬉しかった。今後予備自衛官補の広報を継続し、合格者へのフォローを忘れず優秀な人材を確保していきたい」とコメントする。



UH-1 体験搭乗に参加した時の様子



予備自衛官補訓練参加中の得能さん（左）



予備自衛官補訓練参加中の得能さん（左から三番目）

「第22回震災対策技術展・横浜」で自衛隊をPR

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 山野太資 1等海佐）は、2月8日（木）、9日（金）の2日間、パシフィコ横浜で開催された「第22回震災対策技術展・横浜」においてブースを設置し、自衛隊をPRした。

本技術展は、大規模震災やゲリラ豪雨などの自然災害時の安全確保のための最新製品や技術、サービスが一堂に会する日本最大級の専門技術見本市で、会場には200社を超える参加企業のブースが並び、製品の説明や実演、専門家による講演会などが行われ、2日間で約18,600人が来場した。

神奈川地本は、陸自久里浜駐屯地中央野外通信群第101搬送通信大隊の支援を受け、野外炊具及び31/2トラックを展示するとともに、戦闘糧食の展示や災害派遣活動のDVD放映を実施し、多くの来場者たちの注目を集めた。

野外炊具を見学した来場者は「災害派遣の現場で見たことがある」「走行中も食事を作ることができるのですか」などと質問し、担当者は丁寧に答えていた。

戦闘糧食の展示に足を止めた災害対処関係者は「うちの自治体にもこういうのがあったらいいね」「ご飯とおかずがセットになった備蓄食料は便利だ」などと話し、また「一定期間この食事を食べて、何か気になったことなどないですか」などの質問が続くなど、来場者の防災意識の高さと自衛隊への関心が伺えた。

神奈川地本は「今後も積極的に広報活動を実施し、多くの方々へ自衛隊の活動を理解していただくよう努めていく」としている。



来場者の注目を集める野外炊具と戦闘糧食



「震災対策技術展・横浜」での展示の様子